

ワールドクラスへの飛躍

国際交流による世界最高水準の研究、教育拠点を目指して

日本学術会議など主催、第14回IACIS国際会議を仙台で開催

2012年5月13日、本学の教員が実行委員長・事務局長などとして、主体となって開催した第14回IACIS (International Association of Colloid and Interface Scientists: 国際コロイド・界面科学者連盟) 国際会議が仙台国際センターにて開催された。IACIS国際会議は、3年ごとに開催される、コロイド及び界面科学の分野では最大の国際会議で、今回は仙台で、日本学術会議と公益社団法人日本化学会の主催で開催され、その開会式及びレセプションには、天皇皇后両陛下が御臨席された。会議には国内外から約1,000名の研究者の参加があり、ナノ材料を中心とする、最新の研究成果が発表され活発な議論が交わされた。この前後には関連する著名な研究者が本学を訪れ、産学連携、大学間連携に関しても意見交換が多数行われた。



開会式に御臨席された天皇皇后両陛下
(写真:宮城県広報課提供)

国際的な大学コンソーシアムで活発な活動を展開する東北大学

東北大学は、ワールドクラスの教育研究機関を目指し、国際水準の大学・研究機関との戦略的グローバル・ネットワークの構築を積極的に推進している。

AEARU (The Association of East Asian Research Universities: 東アジア研究型大学協会) は、東アジアにおけるトップクラスの研究指向型の大学17校で構成される大学コンソーシアムである。本学は1998年に加盟し、2011年12月からは、理事会メンバー(7大学)に選出されている。里見総長は2012年5月20日に中国・南京大学で開催された第30回AEARU理事会に出席し、他大学の学長等と幅広い意見交換を行った。

また、2012年6月28日～29日には、第16回APRU (Association of Pacific Rim Universities: 環太平洋大学協会) 年次学長会議が米国・オレゴン大学で開催された。APRUは、環太平洋地域における重要な諸問題に対し、教育・研究の分野から協力・

第16回APRU年次学長会議



参加した学長



講演する里見総長

貢献することを目的に、環太平洋地域の16か国・地域の主要な42大学により構成されているコンソーシアムで、本学は2008年より加盟している。34大学から23名の学長を含む約100名が出席した今回の年次学長会議では、里見総長より、東日本大震災からの復旧・復興におけた東北大学の取り組みや役割、そして決意について講演を行った。

第30回AEARU理事会



Future Global Leadership Program (国際化拠点整備事業) における国際学士コースが開講

東北大学では、文部科学省「国際化拠点整備事業(大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業)」の補助を受け、大学国際化推進プログラム"Future Global Leadership (FGL) Program"を展開し、優秀な留学生の受け入れの拡充のために、新たなプログラムの開発や受入れ環境整備に取り組んでいる。

英語による講義や研究指導等を通じて学位が取得できるコースは毎年増設しており、2011年は新たに7コースを開講した。中でも、学部レベルでは工学、理学及び農学の分野から3コースを展開し、様々な国籍の学生が勉学に励んでいる。

2012年には、FGL Program構想時に予定していた16コースが全て開講する。今後も国際的に活躍する人材の養成を目指し、開設した各コースの内容の発展及び受入れ体制の充実等、教育研究の国際化に向けた環境作りを遂行し続ける。



学部英語コースの学生及びチューター

東北大学韓国同窓会総会・中国校友会総会が開催

東北大学の卒業生等からなる校友会の海外同窓会については現在、中国、韓国、台湾、インドネシアにおいて組織されているが、2011年11月5日には、ソウル市内で韓国同窓会総会が、2012年1月8日には、北京市内で中国校友会総会が開催された。

いずれも井上総長(当時)と関係教職員が出席し、同窓会会員との意見交換のほか、本学の東日本大震災に係る震災復旧・復興施策等についての説明や、最新の研究成果の紹介等を行い、東北大学と海外同窓会との緊密な連携・協力関係を更に強化する有意義な場となった。



中国校友会総会参加者



中国校友会総会で挨拶する井上総長(当時)

第3回日露学長会議を仙台において開催

2012年3月19日～20日、東北大学片平さくらホールにおいて、日露学長会議実行委員会(委員長:東北大学 井上明久総長(当時)、日本・ロシア協会、モスクワ大学の主催により、第3回日露学長会議が開催された。日露両国から33機関が参加し、「日露の大学における教育の国際化とグローバル人材の育成」のテーマの下、学長等による討議等がなされた。

開会式においては、井上明久 総長、ヴィクトル・サドヴニチー モスクワ大学学長、鳩山邦夫 日本・ロシア協会会長(衆議院議員)(黨 常任理事 代読)、松尾泰樹 文部科学省学生・留学生課長、コンスタンチン・ヴィノグラードフ ロシア大使館一等書記官から挨拶がなされ、日露の学長等によるプレゼンテーション・討議ののち、会議総括としてコミュニケが採択された。

コミュニケにおいては、グローバルなニーズに対応した高度な人材の育成、高等教育を広範に取り巻くグローバルな課題への対応、イノベーションを創出する共同研究の推進、防災・減災に寄与する災害科学に関する共同研究の推進、日露間の共同研究プロジェクトに関する情報の収集と共有、2012年秋のモスクワ大学主催による日露医学・人間科学フォーラム(仮称)の開催、2013年のモスクワ大学主催による第4回日露学長会議の開催等に関して、日露間で協力することが合意され、参加者を代表し、井上総長・モスクワ大学 サドヴニチー学長間で署名がなされた。



第3回日露学長会議の様様



コミュニケ採択の様様(右:井上総長(当時)、左:サドヴニチー学長(モスクワ大学))

スタディ・アブロード短期海外研修プログラム

2011年9月及び2012年2～3月に米国・カリフォルニア大学リバーサイド校及びオーストラリア・シドニー大学でスタディ・アブロード短期研修プログラムを合計3回実施し、計83名が参加した。このプログラムは、本学学生が長期休暇期間を利用して、大学間交流協定校であるそれぞれの大学に4～5週間滞在し、集中英語課程に参加すると共に、専門に関わる授業を聴講するというもの。それぞれのプログラムの特色としてカリフォルニア大学リバーサイド校におけるプログラムでは英語運用能力の向上に、シドニー大学におけるプログラムではアカデミック・イングリッシュの習得に重点を置いている。また、滞在期間中はホームステイを行い英語だけでなく現地の生活や文化を学ぶ。

平成19年度にシドニー大学で第一回が開催された本プログラムは、年々プログラムの質の向上と参加者数の増加がなされている。平成23年度には、本プログラムを全学教育科目の海外研修とし、単位付与を開始した。



スタディ・アブロード短期海外研修プログラム参加の皆さん